

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

 公益財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

2016年11月 No.23

かめのりスクール2016



今号の内容

海外日本語教育サポート事業

- ◇ ベトナム高校生にほんご人100人訪日事業
- ◇ にほんご人フォーラム2016(日本)
- ◇ ベトナム中学生日本語キャンプ2016

大学院留学アジア奨学生

- ◇ 夏の研修交流会

青少年交流事業

- ◇ かめのりスクール2016
- ◇ 第3回高校生カンボジアスタディツアー
- ◇ 高校生短期交流プログラム(韓国派遣)
- ◇ ISAK サマースクール2016

海外日本語教育サポート事業

ベトナム高校生にほんご人100人訪日事業



本事業は2016年～2018年の3年間にわたり、ベトナムで日本語を学習する高校生とその学習環境を支える日本語教育関係者に訪日機会を提供し、日本社会・文化の体験、同世代との対話・交流、教育機関訪問を通じ、ベトナム人高校生の日本語学習意欲が高まること、ベトナム中等教育関係者に日本語教育の意義を理解してもらうことを目的としたプログラムです。その第1回目は、東京市ヶ谷を拠点として実施されました。

詳細は次ページにてご紹介します。

海外日本語教育サポート事業

ベトナム高校生にほんご人100人訪日事業

2016年6月12日(日)～19日(日)、ベトナムのホーチミン市、ダナン市から20名の日本語を学ぶ高校生が教育関係者と共に訪日しました。

日本に到着してすぐ、浴衣を着せてもらい、日本人小学生による和太鼓を鑑賞しました。小学生のパフォーマンスの迫りに圧倒された後で実際に和太鼓を体験し、小学生とも交流しました。「小学生との交流は言葉がなくても楽しかった」との生徒の言葉からもわかるように、日本に来て最初の交流でいっきに緊張が解けました。

日本滞在中は様々な機関を訪問しました。大学訪問では、東京外国語大学や早稲田大学を訪問しました。日本語の授業を受ける機会があり、ベトナムの授業スタイルとの違いを感じながらも集中し、必死についていこうとしていた生徒の姿が印象的でした。また、大学でベトナム語を学ぶ日本人学生とも交流ができ、日本語を教えてもらう立場からベトナム語を教える立場になり、得意げな表情を見せていました。専門学校訪問での東京デザイナー学院ではアニメや漫画制作のクラスに興味津々でした。日本での環境問題への取り組みを知ることができる板橋区立エコポリスセンターを訪問した際には、自国との違いに気づき、ベトナムのことを客観的に考えることができたようです。その他、駐日ベトナム大使館の表敬訪問、企業視察としてカシオ計算機株式会社、文化視察として浅草や富士山を訪れました。また、ベトナムの日本語教育関係者は文部科学省

ベトナムのトンボ型やじろべえをプレゼント



小学生と一緒に和太鼓体験



富士山5合目

を訪問し、日本の中等教育について説明いただく機会を得ました。

このプログラムで生徒たちにとって一番印象に残ったのが、東京学芸大学附属国際中等教育学校を訪問した際の日本の高校生との交流でしょう。一緒に昼ご飯を食べ、体育や美術などの授業を受けることを通しての交流は簡単ではなかったと思いますが、やはり同世代、打ち解けるのに時間はかかりませんでした。交流会ではベトナムでしっかり準備したプレゼンを日本語で披露することもでき、自信もついたようです。自分の言いたいことを日本語で表すことがまだ難しいベトナム人生徒も、知っている日本語と身振り手振り、表情、すべてを使い、必死に相手とつながろうとした時間でした。その必死さがあったからこそ「友達に会うためにもう一度日本に来たい」という気持ちに

なれたのだと思います。また、教育関係者も教員と日本の教育事情について意見交換を行い、有意義な時間を過ごしました。

生徒たちが交流したのは日本人だけではありません。先輩であるベトナム人留学生と交流する場も設けられました。先輩から留学体験談を聞き、母語で率直な質問ができたことは、これから進路を決めなければならない生徒たちにとって情報を得る貴重な機会にもなったと思います。先輩の言葉を聞き、今後も日本語を継続して学んでいく意義について考えることができたのではないのでしょうか。

日本での体験を通し、生徒も教育関係者も日本に対する理解が深まったことと思います。この先も、参加者たちが「日本」のことを思い続けてくれることを願っています。

報告：国際交流基金ベトナム日本文化交流センター（報告時）
笹村はるか

ごみと環境について学ぶ



漫画製作クラスを見学

高校訪問交流会でのプレゼンテーション



大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会 in 北海道

奨学生の研究の進捗発表と交流の促進を目的とする夏の研修交流会を北海道札幌市で2016年9月11日(日)～13日(火)の間で実施されました。異なる分野の研究を互いに発表し意見を交わし、共に過ごすことで互いを知り、絆と知識を深める機会となりました。今回は研修交流会の発案者であるOB奨学生がゲストとして参加しました。

「かめのりファミリー 初秋の北国に集まる」

文：蔡睿(サイエイ)

9月11日(日)午前中札幌駅に現地集合しました。初秋の北海道は空が高く、空気が清々しかったです。研修会を行った場所は札幌市内にあるカンファレンスルームでした。1日目は会場内で昼食を済ませてから、すぐに本番の発表に入りました。そこから、2日目まで、各奨学生は自分の研究内容及び研究の進捗について分かりやすく紹介しました。

2日間で行われた発表の中で一番印象深いのはかめのり財団理事・事務局長である西田先生の豊かな人生経験に基づいた特別講義だと思われます。「幸せは自分が決めることだ」などの名言はすぐ奨学生の間で流行りました。そして、初めて北海道を訪れた奨学生もいたため、夕食は北海道名物のジンギスカンや、海鮮などの用意もありました。

3日目は札幌市内半日ツアーです。白い恋人パークの観光と札幌場外市場の海鮮巡りができました。

ハードなスケジュールでしたが、3日間はあるという間に過ぎました。西田先生の貴重な話、恒例のホテル部屋での2次会、長い間会わなくても相変わらず親しい奨学生の友達、これらはすべて私の一生の宝物です。



「笑顔、悟り、交流—かめのりファミリーだからできること」

文：李侑娜(リユウナ)

9月11日(日)～13日(火)、北海道で待望のかめのり財団夏の研修交流会が行われました。早速ついでから、研究発表会が始まり、初日は先輩の方々による発表がありました。どんな時代でも大事な課題として取り上げられている教育の問題や文科生の私には難しい分野の発表もわかりやすく説明をいただき、とても勉強になりました。それぞれ研究の分野は違いますが、みなさん積極的に質問をしたり、議論をしたり、とても熱い雰囲気の研究会が続きました。

そして、むかえた2日目、奨学生の発表はもちろん、西田先生による講義もありました。20代は悩みや変化が多い時期でもあり、自分も常に悩み、考えることを繰り返しているのですが、西田先生の人生のストーリーを聞き、今まで自分の中で解けなかったいろんな問題の答えを見つけたような感じがしました。とにかく失敗を恐れず、前向きにチャレンジし、自分



が望んでいる人生を作っていくのが大事であることを改めて実感しました。一生の宝になる人生の講義を受けることができ、心より感謝しています。

ここまで、みなさんの笑顔が絶えない中で、心を開き交流ができるのは、かめのりファミリーの力だと思えます。これからもかめのりファミリーの絆はより深くなると信じています。

青少年交流事業

かめのりスクール 2016

日本とアジアの若い世代が交流し、いっしょに学び、お互いを理解することを目的とした研修プログラム「かめのりスクール 2016」が国際青少年センター東山荘（静岡県御殿場市）で実施されました。

「かめのりスクール 2016」は 2016 年 7 月 29 日（金）～8 月 2 日（火）の 4 日間、富士山の麓にて開催されました。日本人中高生 21 名とアジアからの奨学生 8 名（インドネシア、韓国、タイ、中国、フィリピン、マレーシア）がグループに分かれ、3 泊 4 日の合宿で、「つたえる、つたわる」をテーマに与えられたタスクを協力し、やり遂げるプログラムです。集合時は、これから始まることを不安に思っていたのか、参加者からは緊張した様子が伺えました。しかし、開校式にてかめのりスクール校長の野村彰男氏（かめのり財団 評議員）による「交流の大切さ」についての話を聞き、午後のグループワークでは、積極的に活動する様子が見られました。夜にはそれぞれのグループが短時間で作ったとは思えない美しい

「アジアの旗」を作り上げました。

翌日、朝 7 時から全員でラジオ体操と大縄跳びを練習しました。大縄では苦手な子を上手な子がフォローするなど既に共同意識が芽生えていました。その日は先生の指示のもと、グループワークを進めました。

夜は天候の都合により、3 日目に予定していたキャンプファイアを実施することとなりました。大学生スタッフの私は、キャンプファイアを仲良くなる前に行うのはもったいない…と思っていましたが、若さというのは素晴らしい、出会って 2 日目とは思えないくらい参加者たちはすでに仲良くなっており、非常に楽しい時間を過ごしました。最後には一人一人がかめのりスクールでの目標を発表し、互いの目標を確認することができました。

グループワークの様子



3 日目はグループ毎に分かれて終日、最終日に行う発表の準備をすることとなりました。アジアからの留学生と意思疎通をするのは大変な場面も見られましたが、言いたいことが伝わるまで様々な手段で頑張っていました。



大学院留学アジア奨学生 OB から

組織は個人の集まりです。しかし、ただ個人たちを集めておけば、組織になるわけではありません。組織は一定の共通目的を持つ個人たちを体系的に集めてできるものです。組織の構成員は入れ替わります。新しく組織に入る人もいれば、組織から退出する人もいます。新しく入ってきた人が出て行った人の席を埋めます。人が変わって、組織が変わる部分もあります。しかし人が変わっても変わらないものがあります。それが組織の面白さだと感じます。かめのり財団から奨学金をいただいている留学生という一つの共通項でくられるかめのり奨学生は「組織」であるのでしょうか。答えは否となります。奨学金をもらって各々の夢に向かって走っていく奨学生をただ単に集めてみてもそれは共通目的に向かって継続する「組織」にはならないでしょう。しかしかめのり奨学生の OB・OG 会は「組織」になりえます。

OB・OG 会は明らかな目的を持っています。その目的とは、かめのり奨学生だった人たちの親睦であり、お互いの益々の発展を祈ることです。言葉で書けば簡単に見えるかもしれ

ませんが、それぞれ異なる個人を共通の目的に向かわせ、集めることは決して簡単なことではありません。簡単ではなく、とてもやりづらいことであるこの OB・OG の組織化は、OB・OG の数と共に重要性を増していくことになると考えています。

文：徐寧教（ソヨンキョ）

2011 年 4 月～2014 年 3 月 大学院留学アジア奨学生
現、東京大学大学院経済学研究科
ものづくり経営研究センター特任研究員



【夏の研修交流会 参加者リスト】

- 胡 新祥（コシンショウ / 中国 / 立教大学）
- 姜 哲敏（カンチョルミン / 韓国 / 筑波大学）
- 洪 驥（コウキ / 中国 / 早稲田大学）
- 周 静（シュウセイ / 中国 / 京都大学）
- 蔡 睿（サイエイ / 中国 / 名古屋大学）
- 金 ボラ（キムボラ / 韓国 / 東京大学）
- 李 侑娜（リュウナ / 中国 / 慶應義塾大学）
- 陳 晨（チンシン / 中国 / 法政大学）
- 蔡 珂（サイカ / 中国 / 千葉大学）
- 徐 寧教（ソヨンキョ / 韓国 / 奨学生 OB）



かめのりスクール校長の野村彰男氏



アジアの旗をつくろう

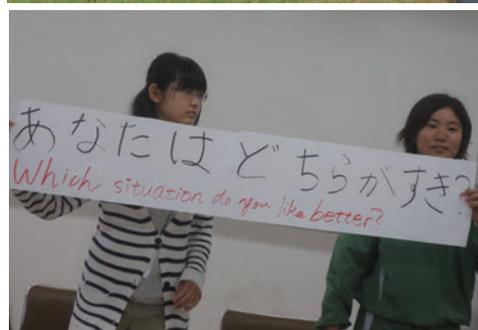


お昼には、息抜きがてら全員で「イントロクイズ」を行いました。出身国は関係なく、邦楽、洋楽双方の曲で盛り上がりました。夜には留学生たちによる母国紹介が行なわれ、近隣国に関する理解をより深めることができました。日本紹介の部分では大学生スタッフによる三味線演奏が行なわれ、全員が聞き入ってしまうほど素晴らしい演奏でした。懇親会ではアジア各国のゲームを留学生が紹介し、実際に遊んでみるなど、忘れられない思い出ができました。

最終日の朝、毎朝練習した大縄跳び対決を行いました。初日よりどのチームも驚くほど上達していました。勝ったチームは、校長先生により美しい富士の絵が描かれた表彰状を頂くことができました。閉校式前、かめのりスクール最後のタスクとなる、発表がありました。この4日間、精一杯協力し合い頑張って作り上げてきた発表は非常に素晴らしいものでした。そして、かめのりスクール2016は、帰りのバスでそれぞれが別れを惜しみつつ終了しました。

たった4日間という期間でしたが、共に協力し合い、様々な困難を乗り越えて得た友達や思い出は一生の宝物となると思います。参加者たちにはこの貴重な経験をもとに、異なる文化を積極的に知り、理解し、尊重し合うことのできる「国際人」へとなってほしいです。

報告：奥村日記
(かめのりスクール2016 学生スタッフ/立教大学)



発表の様子



セッションの様子

参加した留学生の声

- 新しい友達と話すことが楽しかった。新しい日本語を教わったし、意見交換もできた。
- 初めて会う人達と議論して、なにかの結果を得ることが大変だった。
- 留学先の日常生活から離れられるこのキャンプを楽しみにしていたが、このキャンプを通じてより日本人を知り、大切なことは自分の心をオープンにしてあきらめずに話しあうことだと気づいた。

参加した高校生の声

- うれしかったことは、みんなの性格や考え方が違う中でもなんとか1つのものを作り上げられたことです。
- 特に実感したのが、「コミュニケーション能力≠自分が引張っていくこと・主張していくこと」ということです。自分ばかり発言してはただの独占です。意図していることが相手に伝わり、相手の考えを引き出し、そこで自分の考えと組み合わせることこそコミュニケーション能力なのだと思います。

かめのり財団の支援により、以下の青少年交流事業が実施されました。

第3回 高校生カンボジアスタディツアー

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟により、8月3日(水)～12日(金)まで「第3回高校生カンボジアスタディツアー」が実施され、全国から選ばれた高校生10名が参加しました。

かめのり財団のスタッフがファシリテーターとなった「異文化理解ワークショップ」をはじめとした研修を出発前に受けた後、参加者たちは未体験のカンボジアに飛び、在カンボジア日本国大使館(隈丸優次大使への表敬訪問)、UNESCO プノンペン事務所、カンボジア博物館、ツールスレン博物館、キリングフィールド、

サンボー・プレイ・クック遺跡、アンコールワット、日本ユネスコ協会連盟が支援する寺子屋など多岐にわたる場所を訪問しました。

参加者たちは、遺跡での発掘や修復体験、現地の高校生や子どもたちとの交流を楽しみました。都市と農村部の格差、様々な虫を食べる習慣、農村部での人びとの緊密なコミュニケーション、ゴミの問題などが参加者には強く印象に残ったようでした。また、子どもの物売りにも衝撃を受けるなど、プログラムの中で多様な体験をすることができました。

UNESCO プノンペン



報告：日本ユネスコ協会連盟 海外事業部
鴨志田 智也

高校生短期交流プログラム

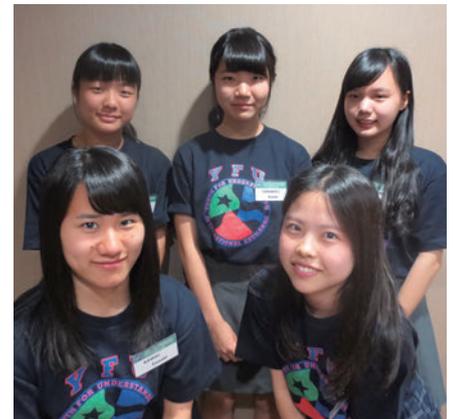
公益財団法人 YFU 日本国際交流財団の実施により、今年も日本人高校生5名が8月に韓国に派遣されました。約1ヵ月間、ホストファミリーとともに生活しながら、現地の高校に通学し、同世代と学校生活を送る貴重な体験をしました。奨学生のことばをいくつか紹介します。

■ 韓国の学生は授業中、積極的に答えていたので驚きました。“日本人は積極的に行動すべき時に消極的になってできない人が多い”とよく言われますが、本当にその通りだと思いました。もっと積極的に発言したり、行動しようと思いました。

■ “光復節”という独立記念日である祝日について、現地の人にどう思うのか聞かれたことがありました。確かに歴史的な面で、今でも国としての関係はあまりよいとは言えませんが、こうして交流ができているということは将来2つの国が理解しあえると私は信じています。

■ 韓国の生徒は日本人と比べて日韓問題を学校の授業できちんと学ぶようです。でも、もし日本が“歴史問題を子供達に教える教育”だとしたら子供達は嫌韓意識を抱いてしまうかもしれません。伝える韓国の教育が正しいのか、伝えない日本の教育が正しいのか私には分かりませんが、少なくとも基本だけでも学ぶべきだと思いました。

出発前オリエンテーション



ISAK サマースクール 2016

2016年7月18日(月)～8月2日(火)、世界33ヵ国から80人の好奇心旺盛な中学生が学校法人インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢(ISAK)の実施するサマースクールに集まりました。今年のテーマは“Growth & Change”、生徒達は2週間のプログラムを通し「成長し変化する」実体験を経て自国へと帰って行きました。自ら変化を起こす人になるにはどうしたらいいのか？リーダーシップやイノベーションのクラスを通し、失敗を恐れず困難な状況にも立ち向かっていくことで自信を得られるということ、異なる意見に耳を傾けるこ

とで新しい視点に気づけるということなど、毎日が新たな発見に満ち溢れていたようです。

今年新しい試みとして、地元の龍神祭りに参加しました。世界中から集まった生徒は、龍の舞や太鼓のパフォーマンス、屋台や花火など日本の夏祭りを楽しみました。英語を母国語としない生徒のためのIEC(Intensive English Course)の授業を受ける日本人の生徒9人は、いつになく自信に溢れた表情で海外からの生徒に日本の文化を紹介するとともによい機会となりました。



支援を受けた中学生が目標を掲げて

報告：ISAK サマースクールチーム

海外日本語教育サポート事業

にほんご人フォーラム 2016 (日本) [Japanese Speakers' Forum 2016 in Japan]

東南アジア5ヵ国(インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア)の中等教育機関で日本語を教えている教師と日本語を勉強している高校生、そして日本の高校生が、ともに学び交流する「にほんご人フォーラム」。

今年、独立行政法人国際交流基金日本語国際センター(埼玉県さいたま市)で8月22日(月)から開催され、教師は12日間、高校生は9日間のプログラムに参加しました。

模擬授業の様子



日本語で発表

教師たちによる意見交換

日本語教師たちは

参加国の教育政策では、現在、これからの時代を担う若者たちにとって必要な能力を育てるために、教育のアプローチの転換が図られています。教師たちは、そのような自国の新しい教育方針を踏まえ、新しい授業案を作成してフォーラムに参加しました。そして、1週間にわたって日本語を使って互いに議論し考え抜いた授業案を「模擬授業」の形で実践しました。生徒役は、フォーラムに参加している東南アジアの高校生。日本語だけで授業をするのは初めての教師も多く、緊張していましたが、生徒たちの力をうまく引き出す実験的な授業が展開されました。

さらに、この新しい能力のための評価方法を考えることも、今回のフォーラムの目的の一つでした。生徒プログラムの観察や自分たちの模擬授業の振り返りを重ねて、今年は全員で「Collaboration(コラボレーション)」の評価表を作りました。短い日数でしたが、その間の集中力と互いに理解し合おうとするコミュニケーション力の高さで、中身の濃い議論が重ねられました。教師たちはこの経験と成果を自国に持ち帰り、それぞれの国で次のステップに進んでいくことが期待されています。

高校生たちは

各国4名の高校生たちは、日本の高校生4名と合流し、6人ずつ4つのグループに分かれて活動を始めました。「日本のイメージ・日本人のイメージ」という課題のもと、グループ毎に話し合い、テーマを絞り込んでいきます。最初はとまどっていましたが、寝食を共にし、協働で課題に取り組む中で、次第に仲良くなり、意見を出し合えるようになりました。その後、街に出て、インタビューをしたり、街の様子を観察した上で、グループの考えを日本語でまとめ、発表会で披露しました。彼らは、自分の意見を伝えるだけでなく、相手の意見をしっかり聞いて協力して物事に取り組むことの大切さを実感したようです。また、今回は、日本の大学生4名がファシリテーターとして高校生を温かくサポートしました。

参加者が集うフォーラムも4回目となりました。東南アジア各国内で、過去の参加者が集まり経験を共有するフォーラムや研修会などが開催されるようになってきています。今回のフォーラムの成果もそれぞれの国でさらに展開されることを大いに期待しています。

報告：国際交流基金日本語国際センター



話し合う高校生たち

「にほんご人フォーラム」とは

かめり財団と国際交流基金の共催事業です。国際社会で日本語を使って協働できる「にほんご人」が増えるように、これからの時代に求められる能力を培うための外国語教育、日本語教育について考え実践するとともに、中等教育における「にほんご人」ネットワークを形成し、若い世代の相互理解の促進とグローバル人材の育成を目指しています。

海外日本語教育サポート事業 ベトナム中学生日本語キャンプ 2016

日本クイズ

2016年7月26日(火)～28日(木)の3日間、ハノイ郊外で「ベトナム中学生日本語キャンプ2016」を開催しました。ベトナムの5都市(ダナン、ハノイ、ビンズオン、フエ、ホーチミン)から計54名の生徒、23名の教師が集まり、3日間さまざまな活動を通して交流を深めました。

今回で4度目となる本キャンプのテーマは「私たちの社会とロボット」。生徒たちは自分の身の回りに存在する問題をどのように解決したらよいかを考え、問題解決のためのロボットを作り、日本語で発表しました。生徒は、活動を楽しむことはもちろんですが、自ら問題を発見して解決方法を考えるということ、ロボッ

ト作成を通して友だちと協力するということも体験しました。日本語の活動を通してできることは、日本語の勉強だけではないことを実感できたようです。また、参加した先生方は、各活動の進行を担当しながら、生徒の活動の様子を観察・サポートしました。キャンプから学びを得た先生、引率する難しさを感じた先生、考えたことはさまざまだと思いますが、一人ひとりが自分自身やキャンプについて、しっかりと自分の視点で評価を行っていることが見受けられました。キャンプ後には、アイスブレイクやロボット作成で行った活動を授業に取り入れて実践している先生もいます。キャンプで考え、行ったことを、現場の授業にも活



かしている様子を聞き、主催者一同、嬉しく思っています。

本キャンプを「きっかけ」とし、これからも生徒が日本語や日本のことをより好きになり、先生方が日本語を教えることについてより深く考える機会が多くなることを願っています。

報告：国際交流基金ベトナム日本文化交流センター
久保田育美



作成したロボットの発表



グループでロボットの作成

今後の予定

- 2016年11月 第8回中学生交流プログラム実施(フィリピン派遣)
2017年1月 かめのりセッション2017
【高校生短期】韓国から高校生来日
かめのり中高生アンバサダープログラム(フィリピン派遣)
2月 【高校生長期】受入生帰国
かめのり財団設立10周年記念式典

お詫びと訂正

かめのりコミュニティ No.22号「ホーチミン市日本語教育国際シンポジウム」の記事において記載に誤りがありました。正しくは以下の通りです。

関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

■ リードの日時：(誤)2016年9月
⇒ (正)2015年9月

■ 記事内の日時：(誤)2016年9月19日(土)～
⇒ (正)2015年9月19日(土)～

発行人 / 西田 浩子 編集 / 松本 龍一 デザイン / イワブチサトシ (BUTI design) 印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒160-0011 東京都新宿区若葉 1-22 ローヤル若葉 211

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/